

令和 8 年度 東北ブロック資源評価会議（新ルール）
（マダラ本州太平洋北部系群の管理基準値等に関する研究機関会議併催）議事概要

日時： 令和 8 年 8 月 27 日（木）13 時 00 分～18 時 00 分

会場： 八戸プラザホテル プラザホール（Teams によるオンライン会議併用）

1 日時 令和 8 年 8 月 27 日（木） 13:00～17:00

2 場所 八戸プラザホテル「プラザホール」

（Teams による Web 会議併用）

〒031-0081 青森県八戸市柏崎 1 丁目 6-6

TEL 0178-44-3121

<https://plazahotel.jp/>

3 開会

4 議題

- (1) 経過説明、漁獲管理規則、ABC 基本指針の説明
- (2) 令和 8 年度資源評価報告（案、新ルール）の検討
 - 1) ブワイガニ太平洋北部系群
 - 2) ヒラメ太平洋北部系群
 - 3) ヤナギムシガレイ太平洋北部
 - 4) サメガレイ太平洋北部
 - 5) マダラ本州太平洋北部系群

参加機関：14 機関 参加者：64 名（有識者含む）

【ブワイガニ太平洋北部系群 資源評価報告案の説明・検討】

水産研究・教育機構（以下、「機構」という）から、本系群の過去 5 年間における検討の経緯を含む令和 8 年度資源評価の結果について説明した。トロール調査による現存量結果を基に JASAM を用いて雌雄別の資源量、M および F を推定した。この際、直近年の M の値が非現実的に高い値で推定され、信頼区間も広がったことから、その値には直近 3 年間の平均値を用いることを説明すると共に、そういった現象が起きる要因を説明した。また昨年度に合意された内容に従い、将来予測における M には 1996～2024 年の平均値を用いた。

質疑では、近年 M が上方修正されるケースが見られるが、来年もそうなる見込みなのか、また、福島ではなく宮城沖での漁獲が見られているが、狙って取っているのかという質問があり、さらに M によって神戸チャートも大きく変わり、現場の納得が得られにくい、という指摘と直近年の M を使わないというアイディアの提示があった。それらに対し、M の修正は調査結果によるものであり、推定は難しい、宮城沖では混獲扱いであることを説明した。さらに、1 年のデータ追加で挙動が大きく変化するのは問題なので、シグマを固定する、値

を小さくするなどの工夫などのアイディアが示されことも併せ、直近の M の扱いについては今後数年かけて中期的に検討していくことで合意した。

本年度の資源評価案については、表現上の修正を含み当初の内容で承認された。

【ヒラメ太平洋北部系群 資源評価報告案の説明・検討】

機構から資源評価結果および漁獲管理規則案に基づく将来予測結果などについて説明した。チューニング指標値の選定が長年の懸念事項だったが、モデル館のパフォーマンスの比較に基づき、今年度よりチューニング指標値に沖底、小底、刺し網の標準化 CPUE を用いたリッジ VPA で資源量を推定することになった。

質疑では、使用したデータの詳細な内容と従来より検討してきた沖底 CPUE のみを用いた場合と今回の場合との違いについて質問があった。それに対し、沖底のみでは当てはまりの良いチューニングとならなかった一方で、漁獲の 8 割を占める 3 漁法の CPUE のチューニングにより、当てはまりが良くなったと回答した。また、新規加入量データの資源評価への使用状況に関する質問も寄せられ、未だ指標値に留まっていることを説明した。

本年度の資源評価案については、表現上の修正を含み当初の内容で承認された。

【ヤナギムシガレイ太平洋北部 資源評価報告案の説明・検討】

機構から資源評価結果および漁獲管理規則案に基づく将来予測結果などについて説明した。資源量は金華山～房総海区の沖底 CPUE を標準化したものを指標値としたチューニング VPA によって推定されており、手法などに大きな変更はないことを報告した。また、年齢別漁獲尾数の情報として、1, 2 歳魚が非常に多く漁獲されており、近年の加入状況が良いことを説明した。

質疑では、有識者から良い加入があったのは喜ばしいことで、その情報は各県の現場からの情報なのかという質問があった。その質問に対して、実際の漁業者からの情報もあり、福島県南部～茨城県による加入が良かったことを報告した。また、レトロ解析の残差パターンについて質問があり、それに対して現状では当てはまりがあまり良くないと感じているので、各県の調査の情報なども盛り込みたいことを説明した。

本年度の資源評価案については、表現上の修正を含み当初の内容で承認された。

【サメガレイ太平洋北部 資源評価報告案の説明・検討】

機構から資源評価結果および漁獲管理規則案に基づく 2027 年算定漁獲量などについて説明した。金華山～房総海区の沖底標準化 CPUE を資源量指標値とした 2 系ルールに基づき算出した算定漁獲量を提案した。標準化 CPUE の算定方法を漁獲がない網の情報も解析に盛り込む手法に変更したことを報告した。また、2025 年は宮城を中心に大きな漁獲があり、1990 年台以降でもっとも漁獲量が多かったことを報告した。

質疑では、2025 年の漁獲急増に対する驚きの声と共に、複数年級による発生であること

から海洋環境が漁場に影響していると理解したが、その上でサメガレイの分布域である深海域で長期にわたって漁獲している漁業はあるのか、また、繁殖期に接岸するものなのか、といった質問があった。それらの質問に対し、ほぼ沖底で漁獲されており、繁殖期に現在漁獲されているほどの沿岸に来るような情報はないことを示した。また、今回から導入した標準化 CPUE について海域別の工夫がなされているとのコメント共に、海域毎の分布量の割合や生物学的な情報も示すとなお良いとのコメントがあった。

本年度の資源評価案については、表現上の修正を含み当初の内容で承認された。

【マダラ本州太平洋北部系群 資源評価報告案の説明・検討】

機構から資源評価結果および漁獲管理規則に基づく将来予測結果について説明した。なお、本資源は 2024 年 7 月より TAC 管理の STEP1 に移行し、2025 年 7 月からは STEP2 に移行している。本年度は前回の研究機関会議から 5 年経過したことから、新たに管理基準値等の見直しを行うことを説明した。

資源評価では、資源量はトロール調査による年齢別現存量をチューニング指標とした VPA によって推定されている。昨年度から手法などに大きな変更はないものの、沖底漁獲の標準化 CPUE および新規加入量結果の導入を検討していることを示した。

質疑では、説明の中で成長鈍化や成熟率に関する話があり、さらに分布が北偏しているとの話があったが、水温の変化と分布シフト、生物特性の変化に関連があるのか、といった質問があり、水温が上昇したことが成長鈍化や分布シフトに繋がっていることを説明し、特に加入が良かった年休ではそういった傾向が強いことを示した。

研究機関会議では、リッカー型再生産関係を採用したことに対して、近年のように親魚が少ない状況でリッカー型を採用すると、加入量の予測が楽観的になることへの懸念が示された。また、再生産関係の残差プロットから、自己相関が高く、これを説明するような環境要因があることが示唆されるのでこの要因を明らかにすると良い研究、良い評価になることが提示された。また、別の再生産関係を用いた時との管理基準値の相違についても質問があった。さらに密度効果や成熟率等の変化についてもさらなる解析を期待したいといった要望があった。

これらについて、残差については海洋環境との影響が考えられる。また、別の再生産関係を用いると管理基準値は大きく変化し、例えば HS 形再生産関係を用いると、震災後の資源急増期でも目標管理基準値以下といったような少し非現実的な目標管理基準値になる。

本年度の資源評価案および研究機関会議資料案については、表現上の修正を含み当初の内容で承認された。